

遊園地の地域共生に関する研究

- としまえんを対象に -

1463034 勝見 周季

指導教員 高見沢実教授 野原卓准教授

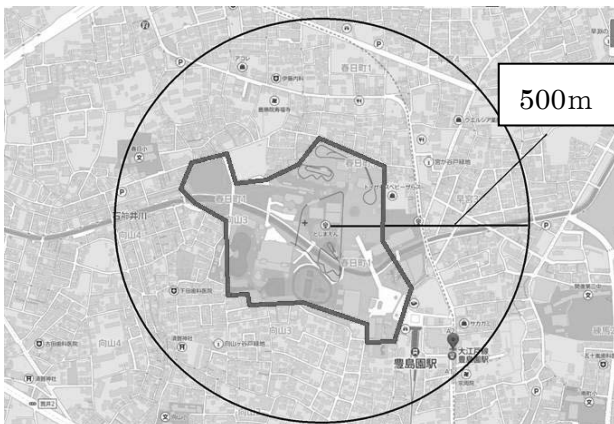
1. 研究背景・目的

国内遊園地はレジャーの多様化もあり、閉園が相次ぎ、衰退の一途をたどっている。今日、日本のレジャー産業に大きな影響を及ぼしているのは遊園地ではなくテーマパークであるのはその規模や集客力からみても明らかである。しかし遊園地の中には数十年以上続いている老舗遊園地がいくつか存在している。それら遊園地はその地域にとって必要な都市的機能を果たし、それぞれの地域でお互いに良い影響を与え、ともに共存することで地域共生をしているのではないだろうか。それら遊園地とその地域の関わりについて考察し、今後の遊園地のあり方の指標となりうるのではないだろうか。

本研究では 90 年以上営業し続けている東京都練馬区に位置する“としまえん”ととしまえん周辺住民に対しアンケート調査を行い、地域に対する役割や周辺住民がとしまえんに対する愛着度を明らかにし、遊園地の地域共生について考察することを目的とする。

2. 研究方法

としまえん周辺住民を対象にアンケート調査を行った。としまえんを中心に半径 500m 以内に在住している世帯に、無作為に 300 通のアンケートを配布し、100 名の回答を得た。配布日は 11 月 30 日、回答締め切りは 12 月 17 日とした。



3. 遊園地・テーマパーク

3.1 国内遊園地・テーマパークの歴史

2000 年あたりから国内遊園地・テーマパークの閉園が相次いだ。特に大阪、東京圏の大都市近郊で閉園が目立ち、テーマパークよりも遊園地の方が閉園した施設が多い。これは集客力の高い TDR, U S J が位置する大阪、東京圏では、明確なテーマ性のない遊園地や集客力のない施設は太刀打ちできなかったと思われる。

3.2 主な国内遊園地

国内の遊園地の閉園が相次ぐ一方で、数十年以上続いている老舗遊園地が存在している。大阪府に位置するひらかたパーク、東京都に位置するとしまえん、神奈川県に位置するよみうりランドはその代表的な遊園地である。これら 3 施設に共通していることとして、ジェットコースター等の遊戯施設だけでなく、プールやスケートリンクといった屋外活動施設があることや、それぞれの地域に根差したイベント等を行っていることが挙げられる。

4. アンケート結果

としまえんで行われているイベントに行く頻度に関する質問では、約 6 割の回答者が年に 1 回以上の頻度で行っており、定期的にとしまえんを訪れる人は一定数存在する。(図 1) また回答者の約 7 割がとしまえんであじさい園のイベントが行われていると知っており、毎年行っている人もいるようだ。

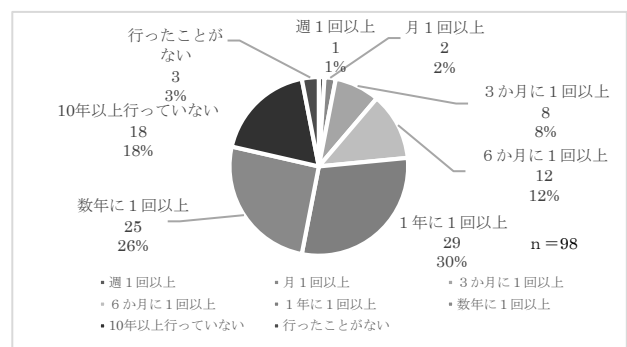


図 1 としまえんに行く頻度

周辺住民がとしまえんに求める都市機能に関する質問では、気軽に立ち寄ることのできる公園的機能と答えた方が最も多く、街の緑化など自然・環境的な機能、避難場所などの防災的な機能がその後に続き、としまえんが本来持っている遊園地の遊戯施設としての機能や、プールやアイススケートなどの野外活動施設としての機能よりも求められている割合が高かった。周辺住民が求める都市機能に答えられるかが遊園地の存続、地域共生につながるのではないだろうか。(図2)

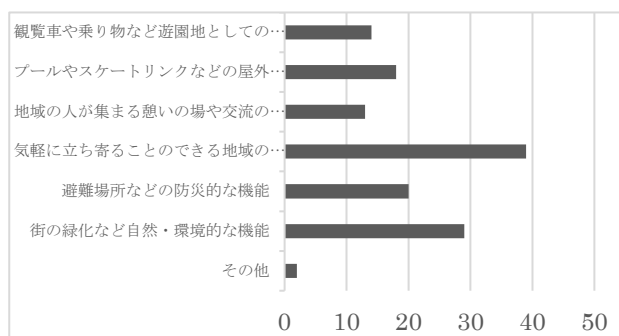


図2 としまえんに求める都市機能

周辺住民のとしまえんに対する愛着度に関する質問では、回答者の約8割が愛着がある、またはどちらかといえば愛着があると回答している。記述回答では、幼少期の思い出や定期的に行っているイベント、知名度の高さなどからとしまえんは周辺住民に愛されていることが分かった。(図3) また、としまえんに行く頻度が多い人ほどとしまえんに対する愛着度が高く、求める都市機能を果たしていると回答した人がとしまえんに対して愛着がある傾向が見られた。(図4)

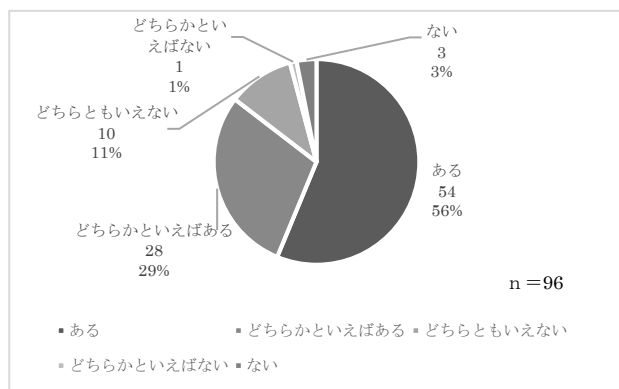


図3 としまえんに対する愛着度

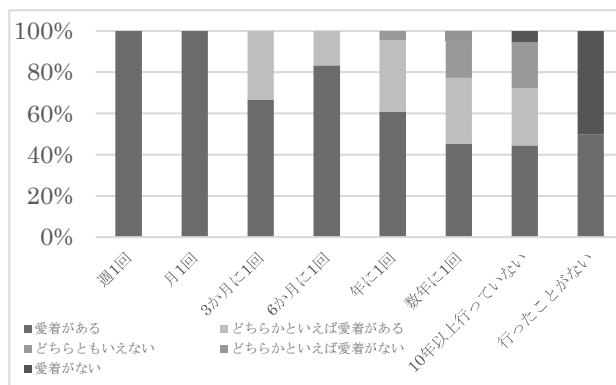


図4 としまえんに行く頻度別：愛着度

5. としまえんの現状と課題

東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表(平成27年4月1日)によると練馬区の面積に占める公園の割合は4.33%と東京23区の他区と比べて低い(23区的面積に占める公園の割合は6.48%)。さらに練馬区の1人当たりに対する公園面積は2.87㎡で、こちらも東京23区の他区と比べて低いのが現状だ(23区の1人当たりに対する公園面積は4.42㎡)。練馬区は面積、人口に対し公園が少なく、としまえんが有する広い敷地は貴重であると言える。ただ現状は出入り口の数、入園料といったことが課題となっている。また、としまえんは東京都指定の避難拠点として活用されていたり、平成29年にはとしまえんの波のプールで警視庁による水難救助の訓練が行われたりと、防災的な機能も果たしている。

6. 総括

としまえんは周辺住民にとって身近な存在で、これからも営業し続けてほしいと思う人は多く、周辺住民に愛されていることが分かった。これらのことが、としまえんが90年以上営業し続けられた要因のひとつであり、遊園地の地域共生には欠かせない要素ある。遊園地が周辺住民に愛されるには、数多く来園してもらい、周辺住民が求める都市機能を果たすことが必要であるが、時代と共に求められている都市機能は多様化しており、それら機能を果たすには課題もあるのが現状だ。

【参考文献】

- 1.大阪観光大学観光学研究報『観光&ツーリズム』第16号「我国の遊園地・テーマパーク産業の生成と発展」中島 恵
- 2.東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表
- 3.各遊園地・テーマパーク HP